

◆令和8年／2026年1月号 第113号◆



會報 産経国際書会

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



高橋照弘理事長 撥毫

令和8(2026)年は60年に一度の「丙午(ひのえうま)」。「この年に生まれた女性は気性が激しい」という迷信があり、前回の昭和41(1966)年には、出産が避けられ、出生率が前年より25%も激減したとされます。故青島幸男さんの直木賞受賞作「人間万事塞翁が丙午」は戦中から戦後にかけ、東京の下町に生きた丙午生まれの女性が、困難があっても逞しく明るく生き抜く様子を描いています。青島さんの母親がモデルで、テレビドラマにもなりました。情熱と強さ、そして温かさ。皆さんのが今年創作される作品にもきっと丙午の「良さ」が反映されるのだろうと期待しています。



産経新聞社
事業本部長
三 笠 博 志



産経国際書会
理事長
高 橋 照 弘

好機、逃さぬように

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、皆様の多大なご尽力、ご協力で産経国際書会にとって非常に実りの多い1年となりました。特に大阪・関西万博会場で開催した特別展は、ふだん書道になじみのない多くの来場者を引き付け、書道人口減少などをめぐる逆風に立ち向かおうとしている書会の今後に明るい材料を与えてくれました。

今年はさらに大きな好機が訪れる可能性が高まっています。日本の書道を国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録するかどうかを決める審査が11月ごろに行われる見通しです。登録されれば、国内外でこれまでになく日本書道への関心が高まることは間違ひありません。そのときにしっかりと産経の書の価値や魅力を伝えられるかどうかが、問われることになりそうです。

産経国際書会の原点の一つは「書芸術による国際交流」です。日本書道の国際化は、書道界の中でも、とりわけ産経の追い風になると確信しています。自由を尊重する精神、多様性、創造性といった特徴は、今の時代に受け入れられやすい要素だとも考えています。未来を育む「ジュニア書道コンクール」の出品数の多さも貴重な財産といえます。

産経新聞社は、無形文化遺産登録を待つまでもなく、こうした皆様の活動や作品の魅力が常に社会に伝わるように力を尽くす所存です。今年も皆様のお力添えをいただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

技術を高め、知識を深め、視野を広く

令和8年新年明けましておめでとうございます。新しい年を迎えた会員の皆様には書活動に一層の努力をするべく、意を強くされたことと思います。

本年の干支は「丙午」であります。丙午の年は情熱的で激しく変化するといわれてきています。十二支にそれぞれ動物をあてはめ午は馬としています。馬は群れで生活する高い社会性があります。社会性をもつことはコミュニケーションを行うことが出来るということでしょう。馬は古くより人と密接に深く関わり運搬用、農耕用、乗用、食用等として共存してきました。

現在、書の環境は厳しいものがあります。書を愛し高嶺を目指し努力して止まない情熱的会員は現実を打開すべく一致団結することが重要であると考えます。今年多くの行事が予定されています。行事への積極的な参加をされ、技術を高め、知識を蓄え、視野を広くするとともに社中を越え、交流し親しむ場として捉えて欲しいと思います。このことにより書会は大きな力を得ることができると確信しています。書会の魅力を広く世に訴えていきましょう。

終わりに会員の皆様の健康と活躍を願っております。

互いに益となる

最高顧問 齋藤香坡

会員皆様にはご健勝にて、新春を迎えた事と大慶に存じ上げます。昨年は米大統領の再選により、米国第一主義が打ち出され武力に替えて貿易関税を表され世界経済に大打撃を与え、今日に至っております。また日本は石破総理降ろしに、野党間の政治論争もあれこれの挙句、高市政権に落ち着きましたが、は

や演説内容も理解なく一方的に大騒ぎとなっています。中国が何千年の歴史を持つ書道の源であるとしたら、誠に寂しい限りです。

書会にあっては、今後の方向性に重点を置かれ、お互いが益となる事を期待し、本年もどうぞ宜しくご指導の程お願い申し上げます。

世の風景を思う

最高顧問 山下海棠

小鳥の啼き声とせせらぎの音に、この一時のさわやかさ、身も心も生まれ変わったように清くなる。小鳥は姿やさしく美しくさえずり、花は形麗しく色鮮やかに咲いている。人も美しく装い、麗しく飾るが、その姿の如く心も美しくあれ。その形の如く思いも清くあれ。清

い心に美しい姿がさらに美しくなる。人の世にはこんなにも気を変えるものがある。きれいにするのには努力がいる。整頓するには心配りも必要だ。常に努力を続けてみよう。あなたがいつも新しくなるものだから。

メンタルな癒しとして

名譽顧問 今口鷺外

旧年を振り返って大きく印象深いのは、やはり、大阪・関西万博での書展のことではないか。初めてのこととて恐る恐るの企画が成功裡に終えることが出来た事は書の行く末を占うに誠に心強いものであった。曾ての実用性が薄れ、加えての少子化と危惧材料も有りはするのだが、此度の事のように思いの外の

世界からの関心など、書がまた違った観点からであったり、最近特に思うことは、むしろメンタルな癒しとしてフィーチャーされるのではないかと。

更には書のユネスコの無形文化遺産登録などの追い風を期して、そんな新しい方向性にも大いなる希望と期待をもつものである。

未来への期待

名譽顧問 竹澤玉鈴

新年あけましておめでとうございます。昨年は産経国際書会の行事も、大阪・関西万博展等が加わり、充実した1年となりました。ここ数年、講習会も大成功との記事を拝見しており、今後の出品点数増が期待できるのでは?と思いました。

顧問会議もしばらく開かれていないので、会報が唯一の情報源です。私自身、係の一員でいた頃と比べ、内容も理解しやすく、充実したものになり嬉しいです。産経国際書会の発展を心より願っております。

関西展

関西展実行委員長
松井玲月

会期●令和7年9月2日(火)~9月7日(日) 会場●大阪市立美術館

リニューアルされた美術館での展示好評

関西展は、まだ残暑厳しい中、9月2日から7日まで大阪市立美術館にて、地方展一番手としての開催でした。あまりの暑さに心配しましたが、1800名程の入場者数は、大阪・関西万博のおかげかなとも感じました。今回は、美術館がリニューアルされ、明るく、また広く使用できることになり、例年通りの出品



中国大使館文化部賞の正川子葉さん(右)



賑わう会場

作品に加えて、万博展へ出品された関西の先生方35名の作品も喜んでいただけたようです。

また、ジュニア書道コンクールの作品も特選以上をゆったり展示でき、親子連れの方にもしっかり見ていただけ良かったと好評、今後につながっていけたらと感じました。

7日は都シティ大阪天王寺で、贈賞式・祝賀会を開催。入選、入賞者あわせて162名の出席者がありました。贈賞式では、たくさんの受賞者が次々と笑顔で登壇。終わりに「中国大使館文化部賞」を受賞された正川子葉先生が喜びの言葉でしっかりと締められました。

祝賀会は、産経国際書会会長代行の伊藤富博様の主催者挨拶、大庭清峰常務理事の乾杯で、賑やかに、楽しく歓談出来ました。

終わりに、関西展実行委員会の先生方のいつも乍らのチームワークで無事閉会となりましたことに感謝して報告と致します。



万博展の作品も展示



伊達家18代当主の伊達泰宗さん



会場には多くの人が訪れた

東北展

東北展実行委員長
松崎龍翠

会期●令和7年9月12日(金)～9月17日(水) 会場●せんだいメディアテーク

盛会だったギャラリートーク

東北展は9月12日から17日まで、せんだいメディアテークで開催されました。東北からの出品作品と高円宮賞・内閣総理大臣賞などの特別賞作品と役員作品が展示されました。

地元の出品者やジュニア展の出品者、ご家族の来館を得て、今展も盛会に終えることができました。恒例のギャラリートークも盛り上がり、地元の最高賞「伊達政宗賞」の宮崎礼子氏をはじめ受賞者による作品制作のお話などを伺え、有意義な時間となりました。

贈賞式では、伊達家18代ご当主、伊達泰宗様の魅力あるご挨拶をはじめ、産経新聞社の三笠博志事業本部長、産経国際書会の高橋照弘理事長のご挨拶を戴きました。

式後、高円宮賞を受賞された高橋理事長による「書と私」の楽しい講演もあり、祝賀会は原田圭泉名誉顧問の乾杯で懇親も最高潮。それぞれ来年の産経展に向けて充実したひとときを過ごすことができました。

最後に、後援を戴きました東北6県・仙台放送に深謝致しますと共に、実行委員の御尽力に御礼申し上げご挨拶と致します。



活気あふれたギャラリートーク



伊達政宗賞が贈られた宮崎礼子さん(右)

瀬戸内展

瀬戸内展実行委員長
大庭清峰

会期●令和7年9月23日(火)～9月28日(日) 会場●広島県立美術館

社中を越えた交流、次回作への意欲

9月の最終週とはいえまだ暑い中、広島県立美術館において第42回産経国際書展瀬戸内展が開催されました。近年瀬戸内展では多くの受賞者に加え、U23に出品される方も増えて頼もしい限りです。

恒例となりましたギャラリートークでは、作品を完成させるまでの過程、作品への思いなどを語っていただき、その後ジュニア書道コンクールにおいて上位入賞者の受賞式も行われました。

贈賞式は多くの来賓をお迎えして行われました。今年は書会の先生方に多くお越しいた

だき、私においては喜びと同時に身の引き締まる式となりました。

祝賀会では広島市議会議員の定野和広様よりユーモアを交えたご祝辞をいただき、松井玲月先生の乾杯で祝宴となりました。短い時間でしたが、参加された会員の皆さんは社中を越えた交流の中、次回作への意欲を増したのではないでしょうか。

改めまして、ご多忙の中お越しいただいた方々、開催に向けてご尽力いただいたみなさんにお礼を申し上げます。



力作が揃った会場



出品数が増えたジュニア書道コンクールの展示



受賞の喜びあふれる贈賞式

中部展

中部展実行委員長
勝田 晃 拓

会期 ● 令和7年11月11日(火) ~ 11月16日(日) 会場 ● 名古屋・電気文化会館

今年はもっと上手く(馬来)なる!

晩秋の夕暮れの美しさには、どこか哀愁が漂い、静かに胸の奥を揺さぶる力がある。

11月半ば、地方展の弓取りは今年も中部。大坂・関西万博の記憶さえ遠のくほど、力強く安定感のある作品が、紅葉前線の歩みと重なるように会場に広がり、連日、来場者の心を感動のベールで優しく包み込んだ。

作品は本来、一人静かに筆と向き合い、自身の思いを注ぎ込んで完成させるものだが、その輝きが最も増すのは、仲間と並ぶ展覧会場をおいて他にならう。書の魅力は、自然の移

ろいのように、時や場所、そして書き手の心の在り方によって姿を変え、二つと同じ表情が生まれないところにある不思議な世界だ。

一年の歩み、努力が実を結ぶ最終日の贈賞式・祝賀会では、人の輪と笑顔が満ち溢れ、「続けることの尊さ」と、「さらなる高みを目指す意志」が確かに感じられた。

名古屋のフィナーレは、万感の思いと共に、錦秋夕暮れの如く、美しく静かに幕を閉じた。

幕降りて 苦勞や墨の香 遠のけり



韓国文化院長賞を贈られた渡邊祥華さん(左)



力作がそろった会場



祝意あふれる贈賞式

第43回 産経国際書展 募集要項

1. 複数出品の料金は1点3,000円です。
2. 第2分野の料金は10,000円です。
3. 外国人出品者は軸装での展示を認めます。
4. 2026ジュニア展高校生A部門出品者は、U23部門の出品料を1点無料とします。

【出品資格】18歳以上ならどなたでも、但しU23は高校生以上23歳まで

(2026年4月1日現在)

【作品部門】(各部門とも未発表作品に限ります)

●漢字部門：A 20字以内 B 21字～200字以内 C 201字以上

●かな部門

●現代書部門：A 少字数書(4字以内) B 近代詩文書(漢字かな交じり文)
C 墨象 D 刻書

●臨書部門：A 漢字 B かな ※出典は自由

●篆刻・刻字部門：A 篆刻 B 刻字 ※この部門は第1分野です

●U23部門：年齢制限(高校生～23歳)のみ審査します。

【作品寸法】(仕上がり寸法を基準とする)

第1分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法=基準寸法
A	240cm×60cm	8尺×2尺(242cm×61cm)縦のみ
B	180cm×60cm	6尺×2尺(182cm×61cm)縦横自由
C	135cm×105cm	4.5尺×3.5尺(136cm×106cm)縦横自由
D	135cm×70cm	5.8尺×2.8尺(176cm×85cm)縦横自由
E	180cm×90cm	6尺×3尺(182cm×91cm)縦横自由
F	120cm×120cm	4尺×4尺(121cm×121cm)

※紙寸法聯落以上の作品であること(但し一つの詩・詞で半切2枚の貼り込みは可)。

※篆刻・刻字・刻書は規定以内であれば自由。

※「かな」の小作品でも、上記規定寸法A、B、C、D、E、Fに貼り込めば第1分野と認めます。

第2分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法
G	135cm×35cm	小画箋2分の1・縦横自由
H	70cm×68cm	小画箋2分の1・方形のみ

※半切は種類により寸法に多少違いがありますが、1～2cmの誤差は認めます。

※「かな」の小作品は、上記規定寸法G、H以外でも第2分野として認めますが、極端に小さい作品は不可。

- 【出 品 料】** 一般部門 第1分野(税込み)=1点13,000円、第2分野(税込み)=1点10,000円
※日本国籍以外の方=1点8,000円
U23(高校生以上23歳まで)部門=1点5,000円、但し「2026産経ジュニア書道コンクール」高校生A部門出品者はU23部門の出品料(1点)を無料とする。
※分野にかかわらず複数出品の場合(2点目以降)=1点3,000円
- 【 賞 】** 高円宮賞、内閣総理大臣賞、産経国際書会会長賞など特別賞と特選、秀作、入選など。
- 【応募締切】** 2026年5月7日(木) 午後3時までに指定表具店(下記)に搬入をお願いします。
- 【発 表】** 2026年8月中旬 産経新聞紙上にて。
- 【贈 賞 式】** 2026年8月19日(水) 東京会館 東京都千代田区丸の内3-2-1
- 【展 覧 会】** 会 場: 東京都美術館 東京都台東区上野公園8-36
会 期: 2026年8月14日(金)~8月21日(金) 17日(月)休館
開館時間: 午前9時半~午後5時半 入場は5時まで
初日は午後1時から、最終日は午後1時まで
入 場 料: 500円(心身に障害のある方と付き添いの方2人、65歳以上、および学生は無料)
展示作品: 秀作以上の入賞作品、地方展(瀬戸内、東北、中部、関西)展示エリア以外の会友作品と入選作品
- 【指定表具店】** (株)清蘭堂 TEL.0268(22)2471 (株)佐久間太熙堂 TEL.03(3844)1353
(株)湯山春峰堂 TEL.03(3451)6002 (株)祥雲堂 TEL.03(6808)1595
藤和額装(株) TEL.045(833)5273 東洋額装(株) TEL.03(6807)6455
(有)齋藤鳳扇堂 TEL.0474(84)6684 キヨー和美術部 TEL.043(298)5351
書道表装ふじい TEL.090(8642)1917

問い合わせ 詳細な募集要項と出品票は産経国際書会までご請求下さい。

第43回 産経国際書展 審査員(予定)

特別選考委員／石川天瓦、今口鷺外、岩浅写心、風岡五城、笠嶋忠幸、齋藤香坡、晋鷗、高橋照弘、竹澤玉鈴、武富明子、田村政晴、鍋島稻子、原田圭泉、松崎龍翠、村越龍川、山下海堂、劉作勝、渡邊麗

漢 字／新井瑞鳳、伊藤秀泉、及川扇翠、大田桂水、大庭清峰、岡林起仙、坂本香心、鈴木曉昇、長尾佳風、平岡雄峰、前田聖峰、丸田華芳、村越弘鷹、本橋春景、山本晴城

か な／伊藤春魁、梅田ちか子、鎌田悠紀子、谷蒼涯、中村雪鷺

現 代 書／加柴律子、河口美櫻、菊山武士、小杉秀花、五月女紫映、鈴木愚山、萩原彰子、林帛甫、久田方琥、正川子葉、三宅秀紅、渡辺敦子、渡邊麻衣子

篆 刻・刻 字／岩浅写心、沈強、高橋照弘

臨 書／金丸鬼山、小池雅游、眞田朱燕、利根川秀佳、町山一祥

特別選考予備審査／今口鷺外、風岡五城、高橋照弘、原田圭泉、渡邊麗

第43回 産経国際書展実行委員会

※任期は令和8年4月1日～令和9年3月31日

【実行委員長】	金丸鬼山
【審査部】	本部長 勝田晃拓
漢字部	部長 吉野富龍 副部長 恩田瑞貞 委員 石川晴空、十亀紫風、東浦暁舜、盛田理泉、和田玲砂
かな、篆刻・刻字、臨書部	部長 諸留大穹 委員 進藤栄峰、高橋彩雲、松岡篁月、宮川恵子
現代書部	部長 西川万里 委員 倉賀野静、栗原蓮翠、鶴淵雅泉、布施夏翠、山沖春蘭、横田玉華
【搬出入部】	部長 永田龍石 委員 梶谷綾泉、門山玲花、神谷映水、柴山枝峯、塚原桃虹、村山螢泉、矢野春潮
【陳列部】	部長 山本晴城 副部長 永田龍石、渡邊祥華 委員 阿久津由美、安蒜欣青、泉芳秋、内田子鴻、大場映翠、岡村公裕、五戸光岳、柴山枝峯、鈴木暁昇、鈴木蓉春、関根史山、中野和博、林龍成、村越弘鷹
【図録部】	部長 青木錦舟 副部長 岩村恵雲 委員 大久恵華、恩田瑞貞、久米麗鳳、諫訪春蘭、高橋峰月、武翠泉、村山螢泉
【東京部会】	部長 武富明子 副部長 山下翠風 委員 岩間桃香、久米麗鳳、関根春峰、秦祐子、(煌心書道会) 顧問 田村政晴
【東北展】	実行委員長 松崎龍翠 事務局長 建部恭子 実行委員 伊勢枝香、小笠原素心、小嶋カズ子、五戸光岳、末永香雅、鈴木葉光、建部絃子、芳賀祥禄、宮崎礼子、渡辺敦子、渡部美恵子、渡辺龍泉
【中部展】	顧問 村越龍川、風岡五城 実行委員長 勝田晃拓 副実行委員長 山本晴城、渡邊祥華 実行委員 赤堀翠柳、磯邊哲舟、伊藤春魁、大場映翠、岡本杏華、加藤松亭、菊山武士、木村大澤、小泉玲洸、佐武照聲、松永葵心、村越弘鷹、和田玲砂
【関西展】	顧問 平方峰壽、今口鷺外、小野亭良 実行委員長 松井玲月 副実行委員長 正川子葉 実行委員 長尾佳風、中村雪鷺、久田方琥、西尾蘭畦、篠原秀朋、生田佳葉、加藤竹黎、柳鵬翔、山田秀園、山田娃泉、山口了世
【瀬戸内展】	実行委員長 大庭清峰 副実行委員長 上村陽香 実行委員 大田桂水、石井思水、平岡雄峰、大段栄泉、松岡舟波、三宅秀紅、鈴木蒼、藤井峯子、圓田翠泉、田中春嶽、藤井玉瑛、曾根小徑、田中吳峰、植木由樹子、美之口琴晴

第42期 産経国際書会運営委員

【総務部】	担当理事長代行 坂本香心 部長 浅香秀子 委員 鈴木博子、戸叶幽翠、人見恵風
【会報・広報部】	担当副理事長 永田龍石 部長 小川艸岑 委員 影山瑠琴、早坂喜伊、横田玉華、渡邊麻衣子
【企画部】	担当副理事長 金丸鬼山 部長 岩村恵雲 委員 大久恵華、恩田瑞貞、盛田理泉
【研修部】	担当副理事長 勝田晃拓、永田龍石 委員 進藤栄峰、松岡篁月
【教育部(ジュニア育成)】	担当副理事長 松崎龍翠 部長 真田朱燕 副部長 高野彩雲 委員 岡田崇花、岡村紫瑠、鎌形美遊、小池雅游、今野美穂、笹山紅樹、鈴木葉光、長岡輝美、長谷川明扇、星野葉柳
【DX推進部】	担当副理事長 町山一祥 委員 鈴木曉昇、新井大鳳
	※デジタルトランスフォーメーションによる業務効率化(審査、陳列、PR…)
	※SNSによる広報、集客、収益事業などを構築することを目標とする
【会員増加企画(東京)】	担当理事長代行 坂本香心、渡邊麗
【会員増加企画(大阪)】	担当副理事長 正川子葉、松井玲月

第42回 産経国際書展 新春展

◆会期 令和8年1月21日(水)～2月2日(月)

1月27日(火)休館

◆会場 国立新美術館 2階B・C・D展示室

◆入場 500円(大学生以下、65歳以上は無料)

※1月21日(水)、オープニングのテープカットを会場入り口付近にて午前10時半より予定しています。

※1月30日(金)午後4時から明治記念館にて贈賞式・祝賀会を行います。



今回は代表展184点、新春展Ⅰ197点、大作3点、新春展Ⅱ463点、合計847点を展示します。大作の下見検討会は9月18日(木)、国立新美術館地下1階審査室で、高橋照弘理事長、坂本香心理事長代行、渡邊麗理事長代行、金丸鬼山副理事長の4人の先生方により行われました。最終的に、評議員の山本てるみさん(現代書)、審査会員の建部絢子さん(現代書)、無鑑査会員の上釜美由紀さん(現代書)の出品が決まりました。

新春展Ⅱの審査は12月5日(金)、国立新美術館地下1階の審査室で、風岡五城名誉理事長、高橋照弘理事長、青木錦舟副理事長、武富明子副理事長、建部恭子副理事長、永田龍石副理事長、町山一祥副理事長、松井玲月副理事長の8人の先生方により463点の作品の審査が行われました。

受賞者は以下の通り

〈会友奨励賞〉

阿部典翠、上村章紀、小倉悠歌、高瀬幹子、豊田游仙、西村航輝、藤原彩園、湯川湖霖

〈産経新聞社賞〉

小西桂子、志波梧楠、田中海月、永山由美子、柳町晴翠

〈奨励賞〉

秋山玲翠、浅野愛莉、池本千翠、井村明香、入江亜衣、上垣ひとみ、臼井桂喜、奥島天舟、押田喜代美、笠原智子、黒田頼子、小早川香葉、小林桃峯、近藤白扇、重田裕翠、瀧谷壽、高橋廣翠、田中薰、富田千尋、豊島優子、中込嶺軒、二宮かる子、二宮鳳雲、長谷川香織、潘桂芳、福本美扇、前田満里子、三上美智子、村田侑里恵、本山理奈、横山麻里亜、吉田真海

受賞者が
決まりました!



大作の下見検討会



公募・会友の部の審査

2026産経ジュニア書道コンクール

今年から関西地区の応募者作品はすべて関西展(大阪市立美術館)で展示します!

高校生A部門の出品料は5,000円。軸装にして返却します。※返却料はご負担ください。

開催要項

会 期 2026年8月14日(金)～8月21日(金)
17日(月)は休館
午前9時30分～午後5時30分
(入場は午後5時まで)
※初日は午後1時から、最終日は午後1
時まで(入場は午後12時30分まで)
会 場 東京都美術館 2階第3・4展示室
賞 【中学生以下】文部科学大臣賞など特別賞、
推薦、特選、秀作、佳作
【高校生】産経新聞社賞、産経国際書会会
長賞、奨励賞、秀逸賞、入選

贈 賞 式 2026年8月16日(日)予定
東京都美術館講堂にて
審 査 員 2026年5月に発表します。審査統括は風
岡五城、審査長は松崎龍翠、実行委員長
は眞田朱燕。
発 表 入賞者氏名は2026年8月上旬の産経新聞
紙上(予定)で発表します。
募集期間 2026年4月1日(水)～6月9日(火)必着
搬入場所 〒134-0088 東京都江戸川区西葛西
6-9-12西葛西トーセイビル4F
(株)スタッフアルファコミュニケーション内
「産経ジュニア書道コンクール」係

出品要項

応募点数 一人何点でも可 応募資格 幼年、小学生、中学生、高校生

出品規定

		幼年	小学生	中学生	高校生
書体		楷書	楷書	楷書または行書	自由
作品への名前等の書き方		年齢と姓名 姓名どちらかでも可	学年と姓名 小1、2年は姓名 どちらかでも可	学年と姓名 学年は中1、中2、中3 と入れる	名前(姓不要)の下に 書または臨と墨書
大きさ	A部門	八つ切り(縦のみ)半切4分の1[たて68cm×よこ18cm]			小画仙全紙2分の1(縦のみ使用) [たて135cm×よこ35cm] 小画仙全紙2分の1(縦横自由) [68cm×70cm]
	B部門	半紙(縦のみ)[たて33cm×よこ24cm]		半紙(縦のみ)	
出品票	漢字でフルネームを記入し必ずふりがなを明記し、作品の左下隅に貼付 高校生の場合、臨書は法帖名、創作は題名を備考欄に記入のこと				

	規定の漢字数	参考課題	
幼年	規定なし	うま	ことり
小1	漢字1字またはひらがな、カタカナ2字以上	みち	さんご
小2		テント	おつかい
小3	漢字1字(かな交じりも可)またはひらがな、カタカナ3字以上	お日さま	やしのみ
小4		写生会	楽しい海
小5	漢字2字以上(漢字かな交じりも可)	学問の力	野生の馬
小6		金銀砂子	天長地久
中学	漢字3字以上(漢字かな交じりも可)	自然の保護	無形文化遺産
高校		臨書あるいは創作(書体自由)	
国際	規定なし		

※国際は外国人または国外在住の日本人

※参考課題は、A(八つ切り)部門、B(半紙)部門共通です。

出品料

	中学生以下	高校生	国際(在日外国人も可)
A部門	1,200円(八つ切り)	5,000円(半切)	800円
B部門	800円(半紙)	800円(半紙)	800円

※金額は1点(消費税込)。高校生A(半切)部門は軸装料含む。

(出品料は下記口座に銀行振込でお願いします。団体出品の場合は一括で入金して下さい。)

みずほ銀行 大手町営業部 普通2786314 口座名: ジュニア書道コンクール

作 品 返却いたしません※特別賞各賞とジュニア賞、いきいき賞、高校生の奨励賞以上は返却します。
但し、すべて着払いにて返却します。不要の方は事務局までご連絡ください。

地方展での展示について

※特に関西地区から応募の方々の展示会場が変更になります。ご注意ください。

展覧会名	会場	会期	対象地域
①2026産経ジュニア書道コンクール	東京都美術館	8/14~8/21	全国(一部関西地域を除く)
②第43回産経国際書展瀬戸内展	広島県立美術館	9/8~9/13	岡山、広島、山口、鳥取、島根、香川、徳島、愛媛、高知
③第43回産経国際書展東北展	せんだいメディアテーク	9/18~9/23	青森、秋田、岩手、宮城、山形、福島
④第43回産経国際書展中部展	愛知県美術館	11/3~11/8	愛知、岐阜、三重、福井、富山、石川、静岡(静岡市以西)
⑤第43回産経国際書展関西展	大阪市立美術館	12/1~12/6	大阪、京都、滋賀、奈良、和歌山、兵庫

※①東京では関西展展示対象地区の【中学生以下】秀作、佳作と【高校生】秀逸賞、入選は展示しません。
それらは⑤で展示します。但し、【中学生以下】上位特別賞とジュニア賞、いきいき賞、推薦、特選と【高校生】奨励賞(A、B)は①東京でも展示します。

※②③④は、【中学生以下】文部科学大臣賞からニッポン放送賞まで上位特別賞と【高校生】産経新聞社賞と産経国際書会理事長賞を展示すると同時に各対象地域の【中学生以下】ジュニア賞、いきいき賞、推薦、特選と【高校生】奨励賞(A、B)と秀逸賞、入選(ともにA部門のみ)を展示します。

※⑤は、【中学生以下】文部科学大臣賞からニッポン放送賞まで上位特別賞と【高校生】産経新聞社賞と産経国際書会理事長賞を展示すると同時に関西展対象地域のすべての作品を展示します。

募集要項、出品票、一覧表は産経国際書会事務局☎03(3275)8902、またはsankeijr@sankei.co.jpまでお問い合わせください。一式資料をお送りいたします。

うちの社中を紹介します！

あしで會

あしで會会長
産経国際書会名誉顧問 今口鷺外

先師吉井天外によって創設された社中である。昨年“あしで會展”は71回目を数えた。これは先師以来小生が引き継いでのものである。因みにあしで會の名称の由来は、あの世尊寺流六代目伊行といわれる“芦手絵和漢朗詠集抄”からのものと聞く。本部・支部の教室展開を中心として競書誌“天外”を発行。SNS動画での指導にも努め、新年を迎えて573号となるのだが、もって全国の諸会員と繋がりを共有している。

天外は故郷福井にあって当時“泰東書道展”少年の部で18歳にして日本一という栄誉に輝いた(昭和9年)。今も小生が預かる、比田井天来から東京都美にて頂いたという1枚限りの賞状は、かの楷書の名手たる松本芳翠の肉筆によるものであり、そこに捺された印は石井雙石・中村蘭台・河合荃廬など超一流の篆刻家によるもので(田宮文平氏の検証)、誠に時代の相違を思うに足るものなのである。

天外は最終的には漢字は木村知石の“玄雲社”、仮名は飯島春敬の“日書美”に所属した。

師亡き後間もなく立ち上がった産経展への急遽参加、それが我が社中にとって大きなエポックと成ったのは間違いないところで、自身社中共々大きく育てて頂いたという実感をもって、今日の

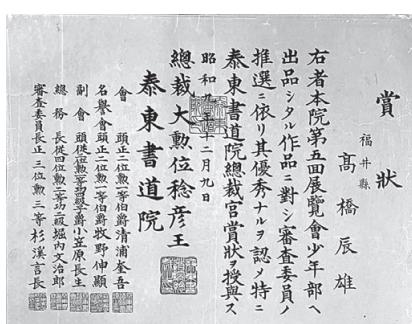
活動に繋がっているという次第である。そのような訳で、幸いにも漢字・仮名の両方を当初より学び得たことは大きく、産経においても漢・仮・臨書の3部門に社中参加させていただいている。

また、商業ロゴの意匠やテレビなどへの進出など新しい道筋の活動を見極めてもいる。

会のありようは、志を共にするものとしての「和」をモットーとし、生涯の大切な時を共に過ごすことが互いのアイデンティティと相成って、愈々楽しくもの研鑽につながっているのではと承知している。

会のスタンスとして日頃「書と文学は不可分」と心得、作品づくりにあたっては、バラエティーある中にも夫々出典の内容を良く理解すべく努めるべしとし、ただ綺麗な書というだけではなく奥深い学習を共に琢磨し合う仲間の社中、という具合なのである。

来るべき新しい時代にあって、書という世界に誇るべき偉大な文化を何としても次の世代に伝えるべく、現代に即した工夫と、先ずは各自の書への真摯な取り組みを。ただし、もう一つのモットーたる「書を愉しむ」は常に忘れず…である。



先師が“総裁宮賞”で日本一に！



研鑽を積む場となる公開講座の様子



毎月発行している競書誌「天外」



第71回あしで會展を終え、会の仲間らとの記念写真

書展トピックス

米国書道研究会60周年記念 日米合同書展 創立者 生田觀周先生の生誕100年書展

生田博子

- 会期 9月2日(火)～9月14日(日)
- 会場 米ロサンゼルス日米文化会館

創立60周年記念日米合同書展は去る9月2日より2週間ロサンゼルス日米文化会館において総出品数約90点を展示。日本の書として好評裡に開催した。在ロサンゼルス総領事館、国際交流基金、産経国際書会はじめ日系有力諸団体の後援に感謝。



第40回臨書摸刻展

岩浅写心

- 会期 9月21日(日)～9月23日(火)
- 会場 埼玉・埼玉会館

古典・古筆を素材に探求を続け、40回の節目を迎えました。記念展に相応しい企画として、泰山刻石(紀元前219年)、開通褒斜道刻石(66年)、石門頌(148年)、史晨碑(169年)などの整本、九成宮醴泉銘などの冊子を陳列しました。多くの人にご来場いただきました。心より御礼申し上げますとともに、次回展に向け、一層努力をしてまいります。

40周年記念展「檀の会書展」

北川佳邑

- 会期 10月1日(水)～10月5日(日)
- 会場 神奈川・おだわら市民交流センターUMECO 1階

今展は創立40周年を迎え殆どを自作料紙に認め出品しました。一角に制作材料を展示したところ、興味を持ってくださった方々に質問を受け、また好評を戴いたりで、会員一同とても励みになりました。遠方よりお忙しい中をご来場賜りました書会の先生方、事務局の皆様に心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



第40回日本綜合書作院展

篠原秀朋

- 会期 10月16日(木)～10月19日(日)
- 会場 大阪・堺市立文化館(堺 アルフォンス・ミュシャ館)

当展の作品の形式は多種多様で漢字・仮名の伝統書に加え、刻字・水墨の華麗な競演がひとつの世界を作り出し、参觀者の方々には各作品をじっくり鑑賞して「感動しました」とのお言葉を次々に頂きました。

小舟で漕ぎ出してはや40回展を迎える充実感を味わっております。

「精進を重ね、前進あるのみ」を信条に会員一同が研鑽に努めることを誓った日でもありました。

第50回記念煌心同人書展

松崎龍翠

- 会期 10月23日(木)～10月26日(日)
- 会場 東京・銀座かねまつホール

期間中は天候にも恵まれ、予想を超えるお客様のご来場があり、盛況に終えることができ、50人の出品者も感激一入でした。

先師山田松鶴先生の「鶴心」から回を重ね50回。今展は最高顧問の齋藤香坡先生はじめ幹部諸先生に多数ご来場賜りご指導戴きましたことに感謝申し上げます。同人一同更に研鑽を重ね精進致しますので、今後共よろしくお願ひ致します。



第30回秋桜会書展

鎌田悠紀子

- 会期 10月30日(木)～11月2日(日)
- 会場 東京・銀座大黒屋ギャラリー

今年の来場者の特徴は、看板を見てのフリー来客、外国人、また、多くの書の経験のない人に足を運んでもらえたことです。これは日頃の啓蒙活動の成果と思われます。特に、30回目の特徴は料紙の鮮やかな色、屏風のテーマは会津八一、光る君への影響で会員数増加に伴い、まずは小字に挑戦となりました。毎月のお題の創作作品も成長し、未来が楽しみです。

写真と書の出逢い「LOVE&PEACE」withブルーインパルス

原田貴世

- 会期 10月31日(金)～11月2日(日)
- 会場 東京・マロニエ通り銀座館ギャラリー

3日間で300人以上の来場者、「写真と書のコラボが新鮮！」との声が多く寄せられました。ブルーインパルスに書と写真を提供している原田貴世・粒木友香里の2人展は、人々が集い語り合い、涙を潤ませながら深い想いをかみしめる空間となりました。書に縁のない来場者も多かったが、強いメッセージ性を生むその魅力が十分に伝わったようです。



第35回記念書心会書展

加藤深流

- 会期 11月7日(金)～11月9日(日)
- 会場 埼玉・所沢市民文化センター ミューズ

「書心」令和6年7月号が創刊500号になったため、前回展は実質記念展としましたので、記念展が2年続いたことになりました。一般部の出品は同人22、招待5、公募29の計56点。今年は狭い第2展示室での実施となり、作品の間が取れず窮屈でしたが、お客様には賑やかに会場を回って頂くことができました。ご来観有難うございました。

第50回記念 全国公募 日輝展 石井理春

- 会期 11月19日(水)～11月24日(月)
- 会場 東京都美術館

天候に恵まれ、多くの方をお迎えできました。日輝展は総合美術展で日本画・油彩・水彩・書・水墨・工芸・写真・その他の幅広い分野の作品を展示。50周年を記念しボードを掲げて、来場者に「輝」の1字を自由にお書きいただき、多くの楽しい書や文字が出来上がりました。今後は若い方々に創造する楽しさ、美に対する感動を表現する力等を養っていただきたいと考えております。



第35回遊心書道会

大庭清峰

●会期 11月21日(金)～11月23日(日)
●会場 広島・県民文化センター地下展示室

二八から半切の大きさで1年の成果を発表すると同時に、インテリアとして楽しめる書を展示。また今回の企画として三十六歌仙の和歌を合同作品として制作しました。さらに学生展として、毛筆・硬筆作品の県知事賞以下約1800点を展示し4000人を超える方々にお越しいただきました。



アラカルト

内閣総理大臣賞「ささやかなお祝いの会」

小川艸岑

●10月23日(木) 東京・銀座 ミタスカフェ

ご多用にもかかわらず、産経国際書会の飯塚浩彦会長(産経新聞社相談役)、齋藤香坡最高顧問、竹澤玉鈴名誉顧問、原田圭泉名誉顧問、高橋照弘理事長、産経新聞社の三笠博志事業本部長をはじめ約30名の方々に参席いただきました。「堅苦しい挨拶を用意してきましたが、やめます」との言葉から始まった飯塚会長からのご挨拶で、会は和やかな雰囲気になりました。作曲家の宮川彬良さん、バイオリニストの宮川由利子さん夫妻による演奏で盛り上がり、楽しい時間は瞬く間に過ぎました。多くの方々に支えられての受賞に感謝するとともに、皆様の思いを大切に受け止め、書会の益々の発展に微力を尽くしてまいりたいと思います。



テレビ東京「開運！なんでも鑑定団」出演

大八木雅山

●7月15日(火) 放映、10月26日(日) 再放送

このほどテレビ東京で放映された「開運！なんでも鑑定団」に出演しました。番組では、若い時に大型バイクでツーリングを楽しみ、36歳の時、病気で4カ月も入院し、48歳の時に最愛の妻に先立たれ会社が倒産し、就職したものの砂を噛むような日々を過ごしたことを辿りながら、書道に没頭し骨董収集に明け暮れたことが放映されました。色々なことがあった人生ですが、娘2人に恵まれ今日があります。感謝です。鑑定結果は、江戸時代の円空仏ではありませんでしたが、何かの御縁と家宝として毎日手を合わせています。良い経験になりました。

最後になりましたが産経国際書会の益々のご発展をご祈念申し上げます。



産経国際書会事務局長代行

大谷卓

10月1日より産経国際書会事務局長代行を拝命致しました。平成3年に産経新聞社に入社し、令和2年に東京本社科学部長に異動するまで大阪本社内で勤務。前任の横浜総局長まで30年以上、編集畑を歩んでまいりました。書にかかる本格的な業務は初めてとなりますが、諸先生方の皆様のご指導ご鞭撻を賜りながら、書を次世代へとつなぐお手伝いに努めたいと思っております。何卒宜しくお願ひ致します。



令和7年度理事会開かれる

令和7年度理事会は12月4日(木)、東京都千代田区の大手町サンケイプラザで開催されました。出席者は56人でした。

はじめに産経新聞社の飯塚浩彦相談役から「新春展、万博特別展、42回展、巡回展いざれも産経らしい個性、創造性あふれる素晴らしいものになりました」と感謝の言葉がありました。特に大阪・関西万博の会場での万博特別展を挙げ、「書による国際交流を深める絶好の機会になったと思います」と述べました。

その後、高橋照弘理事長が議長を務め、議事を進行しました。事務局からは万博特別展には163人の方から出品があり、1万人を超える来場があったこと、続いて夏の研修会として大阪・関西万博と澄懷堂美術館(三重県四日市市)特別鑑賞ツアーが行われたこと、42回展の期間中に開催した書道フォーラム「今さら聞けない書の疑問」が盛況だったこと、本展、ジュニア展とともに多くの方が来場したことなどを報告しました。

また、ジュニア展の地方展での展示について、関西展では地域の作品展示を拡大し、出品者が来場しやすくなることを示しました。

そして、新入会(会友)74人、昇格者100人が示すとともに、来年度の本展審査員と本展実行委員会(案)、さらに運営委員会(案)についても発表しました。今後はこれをもとに運営を進めてまいります。

(事務局)

今後の展覧会などスケジュール

※変更する場合があります。

第42回新春展	令和8年1月21日(水)～2月2日(月) 国立新美術館 贈賞式 1月30日(金) 明治記念館 16時～
総会	令和8年4月23日(木) 大手町サンケイプラザ 14時～
第43回 産経国際書展締切	令和8年5月7日(木)
第43回 産経国際書展審査会	令和8年6月1日(月)～6月3日(水) 東京都立産業貿易センター浜松町館 ※搬入は5月31日(日)
2026ジュニア展締切	令和8年6月9日(火)
2026ジュニア展審査会	令和8年6月23日(火) 東京都美術館 ※24、25日は、審査後作品整理
第43回本展 2026ジュニア展	令和8年8月14日(金)～8月21日(金) 東京都美術館 9時30分～17時30分 8月17日(月)休館、14日は13時から、21日は13時まで。
2026ジュニア展贈賞式	令和8年8月16日(日) 東京都美術館講堂(予定)
第43回 産経国際書展贈賞式	令和8年8月19日(水) 東京會館
第43回瀬戸内展	令和8年9月8日(火)～9月13日(日) 広島県立美術館 贈賞式 9月12日(土) ホテル広島ガーデンパレス 14時～
第43回東北展	令和8年9月18日(金)～9月23日(水) せんだいメディアテーク 贈賞式 9月20日(日) ホテルメトロポリタン仙台 15時～
研修会(予定)	令和8年10月(東京、オンライン)
第43回中部展	令和8年11月3日(火・祝)～11月8日(日) 愛知県美術館 贈賞式 11月8日(日) ホテル名古屋ガーデンパレス 12時～
第43回関西展	令和8年12月1日(火)～12月6日(日) 大阪市立美術館 贈賞式 12月6日(日) 都シティ大阪天王寺 12時30分～
理事会	令和8年12月10日(木) 大手町サンケイプラザ 14時～(予定)

青陽如雲先生を偲ぶ

7月25日記録破りの酷暑の中、先生をお尋ねしました。週2日点滴を受けているとの説明を聞き部屋の中に。3年間休会していた「同巧会書展」を令和8年2月に再開しますと報告を。耳も聞こえ会話も成立し、とても穏やかなご様子。暑さ知らずの快適な室温に心から安堵し帰路に。それからわずか10日余り後の8月6日、ご逝去の知らせが届きました。享年90歳。7月の訪問がまるでお別れに伺ったかのような結末となりました。

勉強熱心で博識のある先生でした。同巧会の鍊成会や研究会では広い知識と技術を惜しみなくご教示くださいり、また産経国際書会のためにも大いに活躍、ご尽力されました。同巧会・書の世代の会員一同心から感謝し衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

先生安らかにお眠りください。合掌。

産経国際書会副理事長 同巧会会長 武富明子



第34回産経国際書展の内閣総理大臣賞受賞の祝賀会での青陽如雲さん(前列中央)

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈2026年1月～5月〉

展覧会名	会期	会場	団体・代表名
第42回雅誕会書展	1月6日(火)～1月11日(日)	有楽町 朝日ギャラリー	雅誕会・金子大蔵
第44回埼玉県中央書道展覧会	1月16日(金)～1月21日(水)	埼玉・上尾市民ギャラリー	埼玉県中央書道人連盟・高橋紫芳
第24回書道研究泉の会 新春展	2月3日(火)～2月8日(日)	千葉・四街道市民ギャラリー	書道研究泉の会・梶谷綾泉
第89回龍峠書道展	2月4日(水)～2月11日(水)	東京都美術館 第1・2棟1F展示室	龍峠書道会・林龍成
第41回景雲社「絆」書道展	2月9日(月)～2月15日(日)	静岡・クリエート浜松 ギャラリー35	景雲社・勝田晃拓
第44回全国公募・学生部併催 煌心展	2月13日(金)～2月18日(水)	東京都美術館	煌心書道会・松崎龍翠
第61回同巧会書展	2月17日(火)～2月22日(日)	京橋 ギャラリーくぼた	同巧会・武富明子
第37回書成会書展	2月19日(木)～2月22日(日)	セントラルミュージアム銀座	書成会・建部恭子
第54回八戸臨泉会書展	3月6日(金)～3月8日(日)	青森・八戸市美術館	臨泉会・原田圭泉
第77回八戸臨泉会学生書道展			
令和8年高知県書芸院展	4月6日(月)～4月12日(日)	高知・かるぼーと 第3室	高知県書芸院・楠瀬昭峰
誠心社現代書小作品展 —國井誠海一門創立80周年記念—	4月15日(水)～4月19日(日)	上野の森美術館 ギャラリー	誠心社・渡邊麗
翠香会書展	4月23日(木)～4月26日(日)	千葉・君津市生涯学習交流センター	翠香会・齊藤春欣
第51回鍾雲書道展	5月30日(土)～5月31日(日)	埼玉・寄居町中央公民館	鍾雲書道会・大澤芳洲

追 悼

次の先生が黄泉につかれました。
本会でのご活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

評議員 小野寺聖乗(令和7年9月)

編集後記

令和8年午年の幕開けとなりました。皆様にとりまして佳い年でありますよう願っております。

昨年も暑い暑い夏でしたが、6月14日から19日まで開催された「産経国際書展大阪・関西万博展」は大盛況でした。163名の会員が出品し会期中1万人を超える入場者で賑わい、世界へ書道と産経国際書会をアピールすることが出来ました。

昨年1月の国立新美術館での第41回新春展より始まり第42回産経国際書展、ジュニア展、関西展、東北展、瀬戸内展、中部展と無事終了出来ましたことは実行委員の先生方と共に会員の協力の賜と感謝致します。

10月には史上初めての女性総理大臣が誕生し話題となりましたが、産経国際書会でも大勢の女性の先生方が活躍されていますことは誇らしく思います。

今年も産経国際書会の発展を願いつつ、会員の皆様と繋がっていきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(早坂喜伊)

(会報編集委員／永田龍石、小川艸岑、影山瑠琴、早坂喜伊、横田玉華、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は高橋照弘理事長

編集・発行 令和8年1月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

email : shokai@sankei.co.jp

<https://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>



産経国際書会
ホームページ

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願い致します。